

(2) 財政状態に関する分析

①資産・負債・純資産の状況

資産については、現金及び預金が164億4千4百万円減少したものの、受取手形及び売掛金が151億9千4百万円、商品及び製品、原材料及び貯蔵品などのたな卸資産が80億1千9百万円増加したことなどにより流動資産が27億1千6百万円増加したため、34億5千3百万円増加し6,649億6千5百万円となりました。

負債については、有利子負債が66億2百万円減少したことなどにより、95億5百万円減少し4,405億5千8百万円となりました。

純資産については、当期純利益などによる利益剰余金の増加179億3千4百万円、為替換算調整勘定の減少57億2千5百万円等により、129億5千8百万円増加し2,244億7百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは税金等調整前当期純利益375億9千5百万円、非資金項目である減価償却費329億8千4百万円の振戻し、売上債権の増加168億7千1百万円、たな卸資産の増加93億4千1百万円、法人税等の支払額83億5千2百万円等により、406億3千万円のキャッシュ・インとなりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは有形及び無形固定資産の取得による支出424億8千8百万円等により、435億5千万円のキャッシュ・アウトとなりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは長期借入金の返済による支出297億8千8百万円、短期借入金の純減少56億2千2百万円、配当金の支払額50億1千8百万円、社債の発行による収入149億1千9百万円、長期借入による収入143億5千8百万円等により、126億9千5百万円のキャッシュ・アウトになりました。

なお、有利子負債の当期末残高は、前期末に比べ66億2百万円減少し2,539億8千1百万円となりました。

また、現金及び現金同等物の当期末残高は、前期末に比べ164億1千5百万円減少し331億7百万円となりました。

(単位：億円)

項目	前期	当期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	670	406	△264
投資活動によるキャッシュ・フロー	△286	△435	△148
財務活動によるキャッシュ・フロー	△250	△126	123
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10	△8	2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	122	△164	△286
現金及び現金同等物の期首残高	372	495	122
現金及び現金同等物の期末残高	495	331	△164
有利子負債残高	2,605	2,539	△66

③次期の見通し

次期のフリー・キャッシュフロー(営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローの合計額)は、当期に比べ、運転資金の増減(売上債権、たな卸資産及び仕入債務の増減額合計)による支出の減少等により、増加すると予想しております。

有利子負債の期末残高については、当期末に比べ9億円減少の2,530億円と見込んでおります。

④キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成20年3月期	平成21年3月期	平成22年3月期	平成23年3月期	平成24年3月期
自己資本比率 (%)	26.9%	25.4%	27.3%	28.3%	30.0%
時価ベースの自己資本比率 (%)	45.1%	26.4%	36.8%	40.3%	34.0%
キャッシュ・フロー 対有利子負債比率(年)	5.1年	6.7年	4.7年	3.9年	6.3年
対純有利子負債比率(年)	4.7年	5.9年	4.1年	3.1年	5.4年
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	8.1倍	6.7倍	10.4倍	13.7倍	9.8倍

各指標の計算根拠

自己資本比率：(純資産－新株予約権－少数株主持分) / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / キャッシュ・フロー

キャッシュ・フロー対純有利子負債比率：純有利子負債 / キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー / 利払い

※各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

※株式時価総額は期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しております。

※キャッシュ・フローは営業キャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている長短借入金、コマーシャル・ペーパー、社債、転換社債、リース債務を対象としております。純有利子負債は有利子負債からキャッシュ・フロー計算書の現金及び現金同等物期末残高を控除したものです。また、利払いについては、キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。